

「おちたのどろなるしだろう。」  
 この話を読んでわたしが一番大へんえう、  
 と思、通学路は、フイリピンの雨衣を  
 二本、わたしただけのはしです。落ちえうで  
 こわいし、万が一、落ちたら大げがをしえう  
 だからです。そのはしをわた、ている人は、  
 ずいぶんゆら気があるな、と思います。もし、  
 わたしが雨衣を二本、わたしただけのは  
 しをわたらないと学校に行けなとしたら、  
 あたりたくなくと、はし、こで、わたるかあ

たらないか、ずい、とまよ、ているえう。  
 まるで、おぼけにあ、たときのようながおも  
 するがもし水ませし。そ水でも行くのは、ま  
 と、友をちとい、しよ、に楽しくじり、まよ、うを  
 する、学校が大すきだからだと思、ます。あ  
 たしも大すきな田工のじり、まよ、うがある日、  
 がせで学校を休まなければいけなくなり、学  
 校に行きたくなりました。学校がすき、とい  
 う気持ちには同じなのだと思います。  
 わたしの通学路は、雨衣のはしはあり